

令和5年度 いのちの授業 事例集（中学校）【 理科 】

掲載数

8

地区	学年	教科等	テーマ	内容	参考事項（講師・教材等）
1 相模原市	中3	理科	生命の誕生	相模原市内の内水面試験場で保護されている藤沢メダカを借用して、理科の実験の中で有性生殖を行わせた。その受精卵の卵割を観察後、数日前に受精した受精卵の胚に生じている拍動の観察させる。 授業の最後に拍動のある胚を潰すように指示した。（実際には潰させない）この授業を通して生命はどの時点で生じているのかを考えさせた。	身近に流れる川に昔生息していたメダカを実際に使用することで、環境教育の観点でも指導ができた
2 湘南三浦	中3	理科	生物どうしのつながり	実際に、様々な種類の動物を飼育し、その生態を観察することを通して、それぞれの生物が、生きるために何が必要で、そのためにどのようにつながっているかを学び、それぞれのいのちの尊さについて学んだ。	飼育している、10種類以上の魚類、は虫類、両生類、哺乳類
3 県央	中1	理科	地球（ゆれる大地）	2学期に学習した地震の仕組み、地震と震災のちがいをふまえて、石川県の地震について取り上げた。内陸型地震と海洋型地震について理解を深めるとともに、石川県での地震を身近なこととしてとらえ、被災者の気持ちに寄り添うような授業を行った。	啓林館 「未来へひろがるサイエンス1」
4 県央	中3	理科	「自然と人間」自然の中での物質の循環を考えると、命の循環に気づく	炭素の移動を個々で調べ、図に示していく学習を行った。「生産者」である緑色植物から始まり、「消費者」である草食・肉食動物、「分解者」である細菌類までについて、それぞれが、わかりやすく解説を入れ、説明していく中で、生徒は、「物質の循環」とは、まさに「命の循環」であることに気づいていった。生徒のコメントの中には、「生産者の努力によって、我々消費者は生命をつなぐことができている」など、私たちの生活といのちの密接な関わりについて考えを深めていた。	
5 中	中2	理科	生命を維持する働き	生命を維持する体のしくみとして、消化器官、循環器官等の働きを学習する。	理科教員が指導した。
6 県西	中3	理科	生命のつながり 自然界のつながり	生命が細胞から成り立っていることをスタートに、細胞の受精から子孫が繋がっていることを理解することで、現在の自分が存在するために多くの命・祖先が関わっていることを学習する。 自然界において、他の生命を食べることによって自分の命を維持していることから生命の尊重を自覚する。	講師：理科教員

7	県西	中1	理科	防災学習	1月1日の能登半島地震をふまえ、地震の授業の際にインターネットやハザードマップを用いて、自分の住んでいる地域の危険性や災害についてレポートを個人でまとめた。生徒同士で話し合う中で、家族とどのように連絡を取るか、防災グッズを家庭に置いているか、大けがをした人がいたらどうするかなど多くの視点で話し合いを行う様子が見られた。	小田原市のハザードマップ
8	県西	中1	理科	植物の分類	「実や種子をつくる花のつくりと変化」の観察のため、実際の植物（ツツジ）を分解して観察を行った。植物も生物の一種なので、生きていることを教えた上での観察だったため、生物のいのちをつかって学習していることを教えた。	TTでの授業